

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472200217		
法人名	医療法人 三愛		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	三重郡菟野町大字宿野字神明田325		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472200217&amp;SCD=320">http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472200217&amp;SCD=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 21 年 8 月 4 日 (火)		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の一員として、地域と支えあいながら、本人がこれまで培ってきた地域社会との関係の継続を大切にしていきます。  
 365日、24時間の日々の生活においては、「お世話する」のではなく、「生きることを支援する」という姿勢で本人の気持ちに寄りそい、「できること」に着目し、思いや希望が叶えられる方法を考えていきます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体、医療法人三愛の介護老人保健施設での豊富な経験と深い知識を持ち、利用者並びに職員にも全幅の信頼があるリーダーシップ(管理者)の下、利用者が自宅に居た時以上に地域社会との繋がりを大切にすることを基本に、利用者職員が考えた『明るく楽しく笑顔で暮らす いそがずあせらずゆったり』『笑顔一番心にこにこ 今日も一日楽しく暮らそう』をモットーに、真に利用者の意向や思いを大切に、何時も笑顔で明るく接している。また、管理者はもちろん全ての職員が介護支援専門員、介護福祉士等の有資格者で福祉や介護の知識、技術も幅広く、さらに母体が医療機関であり医療との連携が良好なことから、家族の安心感と、利用者が生き生きと安心して暮らしている様子が伺える事業所である。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を事業所理念として共有し 家族や地域との関わりを大切にしながら実践している。	開設時から、『地域に開かれたものにする』とともに、利用者が地域の一員として生活を支える』を理念に掲げ、福祉、介護の経験が豊富な管理者の下で、職員も理念の意義を良く理解され、家庭的で何時も優しく笑顔での支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	商業地の中にある理地条件を活かし 積極的に地域に出向き また迎え入れ 交流に心掛けている。	自治会に加入し、地域の祭りや清掃作業に参加すると共に、事業所に地域の方々(ボランティア等)を積極的に受け入れている。近隣に大手のスーパー、薬局、食堂、喫茶店等があり、利用者もお客として顔馴染みができ、外出時の見守りや話し相手との関係が出来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	菰野町社協のヘルパー2級講座の実習生を受け入れたり 運営推進会議を通じて 支援の方法を伝えたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し 多方面の方々意見交換し サービスの向上に生かしている。	行政、自治会長、福祉モニター、利用者、利用者家族(全員に声掛けし多数参加)をメンバーに定期的に開催し、事業所からの報告と開催毎にテーマ(例・ひだまりにおける終末期医療と介護・ひだまりの防災大丈夫等)を決め有意義な意見交換をしている。	メンバーの全員参加を前提に考え、3ヶ月に1回の開催となっているが、テーマ毎に少人数の参加による会議の開催を検討され、2ヶ月毎に開催されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席 介護モニターの来所 又日頃から積極的に指導を仰ぐ等 連絡を密にとっている。	管理者が、日々の状況報告とともに大小問わず事あるごとに町(行政)に出向き担当者に相談している。担当者も何でも気軽に相談に応じてくれる。また、福祉モニターを毎月受け入れる等連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや学習会を通じて 精神及び身体拘束を行わない介護を徹底している。	管理者、職員とも利用者の人権を守るケアを基本に、身体はもちろん言葉かけや精神面等においても拘束をしないケアを心がけ実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にあってはならないという共通の認識を持っている。言葉を含め その傾向が見られる時は見過ごすことのない様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については学ぶ機会もあるが 活用できる支援は現在行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や利用者の不安や疑問点に耳を傾け理解や納得が得られる説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族とは日頃から信頼関係を築き何でも話せる雰囲気作りに心掛けている。言いつらい事は外部に苦情相談窓口があることも伝えている。	家族の面会時、運営推進会議に家族全員に声掛けし意見や要望を聞く機会としている。家族からは管理者と職員の対応が大変良いので安心して任せられます等の意見が多い。外部者に言える機会とし国保連、菰野町の相談窓口を重要事項説明書に記載し説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度 職員同士の会議を持ち 自由に意見を述べたり 提案したり出来る様にし それらを日々の支援に反映させている。	月1回の管理者が入らない会議で、職員が思い思いの意見やアイデアを出し合い管理者に提案、管理者自らも常に日々ケアの場で職員の気づきや意見に耳を傾け、出された意見やアイデアを運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は働き甲斐のある職場に向けて努力はしているが 給与水準等 企業の努力のみではどうしても無い面もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員の研修や内部職員研修を行っている。また外部研修の機会を設けたり 伝達研修を行ったりして資質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議への参加呼びかけ 事業者会議での意見交換また県グループホーム協会に入会し 交流や学習の機会をもつように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には訪問したり ホーム見学に来て頂き 本人の思いを受け止め 事前に信頼関係がもてるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談 申し込みに来所された折には 時間にゆとりを持ちながら 家族の思いが十分受け止められるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の話を傾聴し 今何を必要としているのかを見極め 他のサービス利用についても説明する事がある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の何気ない会話の中から、本人の思いや、どうして暮らしたいか、不安はないか、などをとらえて、一人ひとりの個性を大切にしながらその人らしく暮らせるように支援している。利用者の今までの生活や経験から日々の生活のなかでもアドバイスをもらう機会が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には本人の歴史やこだわりなどいろいろな情報を聞かせてもらい、違和感なく暮らせるように家族の意向も尊重し、共に支えていけるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣住民や知人、友人等が気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように支援している。また、以前から行きつけの美容院への定期的な利用等、今までの生活スタイルや習慣を大切にしている。	事業所には畳敷きの広い居間兼客間の憩いの場所があり、馴染の知人、友人、地域の方等がいつでも自由に面会できおしゃべり出来るようにしている。また、行きつけの美容院や喫茶店、実家の墓参り等馴染みの人や場所との関係を大切にしたい支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のよい利用者同士が楽しく過ごせるよう配慮したり、閉じこもりがちの方にはさりげない声かけをして、交流の機会をできるだけ多く作り、リーダー的存在の人には力が発揮できるような場面をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も 本人や家族の相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの興味のあることや得意なこと、人生のよい思い出となっている頃のこと等職員間で情報を共有し合い、その人らしさが出せる暮らしになるよう支援している。また、その都度、本人の希望や要望を聞き、意向の把握に努めている。	本人と家族からこれまでの生活歴や希望、趣味、嗜好等を聞くとともに、日々生活の中でさり気なく職員と二人になる時間をつくり聞き出す。また、日々の体調や表情、行動等から個々の思いや意向の把握に努め全ての職員が共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、本人の了解をとって、家族や知人、友人に本人の生活歴、ライフスタイル、価値観等を聞かせてもらい把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムや習慣を大切にしている。また、一日のうちで、できるだけ本人が活躍できる場を提供し、生き生きと生活できるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のミーティングを開催し本人や家族から得られた情報をもとに作成している。また、新たな問題や課題が生じた場合は本人や家族意向を取り入れ随時再検討し見直している。	本人と家族からの希望を基本に、利用者毎の担当で原案を作り、月1回の全職員によるミーティングで検討されたものを介護支援専門員が集約し作成している。定期的な見直しは3ヶ月毎に、体調等に変化が生じた時にはその都度家族の意向も聞き見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日誌には本人との会話やエピソードを交え、気づきや状態の変化など職員間で情報を共有している。仕事に入る前には、必ず日誌には目を通すことを義務づけている。また、その都度の状況を整理し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自家への外泊・墓参り、喫茶店や理美容院への外出、買い物への同行等、本人や家族の状況・要望に応じて多機能性を活かした支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政 地区 民生委員 消防 ボランティア 近隣住民等 地域資源に支えてもらいながら 安全安心な暮らしを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医での受診を支援している。また協力病院とも連携しながら適切な医療が受けられるように支援している。	本人、家族の馴染みのかかりつけ医で受診できるように支援している。また、母体が協力医療機関であり医療との連携は常に保たれており、適切な医療が受けられる体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力病院の看護職には情報や気づきを詳細に伝え 相談しながら適切な医療や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは日頃から情報交換を行い 入院時の安心な治療 また早期に退院できるよう関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については入居時から話し合っている。重度化した場合は 介護 家族 医療とともに話し合い 方針を共有しながら 良い終末を迎えられるよう チームで支援に取り組んでいる。	入居の段階から家族とは話し合っている。また、家族が多数参加の運営推進委員会においても、『ひだまりにおける終末期医療と介護』をテーマに議論も重ねている。重度化等終末期の必要な場面が近づけば、家族や協力医療機関者等との協力を得て良い終末を迎えられるように支援する方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	不定期ではあるが 急変や事故発生に備えて 初期対応の方法の実践力を養っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との話し合いで避難方法を確認したり 毎月の防災訓練で安全対策に心掛けている。	事業所独自で、職員が火災時の訓練テーマを決めて、月1回利用者も参加する昼間の防災訓練が行なわれ、利用者が安全に避難出来るよう心掛けている。職員が手薄の二人となる夜間の避難訓練等は実施されていない。	防災訓練を毎月実施され、昼間の災害に対する対応が十分出来ているが、職員が少数の夜間についても利用者が安全に避難できるように、市の消防署や近隣の方の協力を得た夜間想定非難訓練を実施されることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねるような事柄であれば、人前で実施するのではなく、声かけをして、場所を移動してもらい、本人が傷つかないような言葉や態度に気をつけながら、さりげなく支援している。	一人ひとりの人格を尊重するケアに心がけ、特に言葉掛けや態度については、さり気なく優しく笑顔で接している。少し気になる言葉掛けがあれば、管理者がその都度厳しく指導をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の生活の中で本人が決定する場面を作っている。お茶や食事、嗜好、レク、入浴等本人のその日の心身の状態も含めて希望を尊重して生活している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの主張や意見を尊重して体調に配慮しながら柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時は見守りを基本として、鏡の前に立っていただき、身だしなみを整えられるようにさりげなく支援している。また、理美容は希望を聞いて、以前からの馴染みの店で行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りには利用者にも参加していただいている。調理、盛り付け、片付けも利用者と一緒に行っている。	ユニット毎に利用者の好みに合わせ、献立や食材の買出し、調理、盛り付け、後片付け等利用者も参加して行なわれている。食事は職員も同じテーブルで四方山話をしながら楽しくしている。また、毎月一回ユニット毎にお好みの外食に出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特にチェックの必要な利用者には、食事量や水分量等、摂取状況をチェック表に記録して職員間で情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前には必ず全員が口腔ケアを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の状況、状態を把握してトイレ誘導を行っている。	目標はトイレでの自立排泄であり、日々の寄り添うケアから、本人の訴えや表情を観察することで排泄のリズムを把握し、トイレでの自立排泄が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつにバナナやヨーグルトを取り入れ、十分に水分を摂っていただいている。また、天気の良い日はできる限りの戸外への散歩を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせて、ゆったりとくつろいだ気分で入浴していただけるよう配慮している。	希望があれば毎日の入浴や朝風呂、夕風呂も可能であるが特に希望がないので現状は午後入浴となっている。曜日や一番風呂、しまい湯等本人の希望に添うようゆっくり、ゆったり入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握して、夜間徘徊のある方には昼間の活動を活発にして、昼夜逆転にならないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、職員全員が内容を把握できるようにしている。服用に際しては見守りを基本にし、声かけによって確実に服用されたか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意なこと、できることなど、一人ひとりの力を十分発揮できるように支援している。(食器洗い、坐りながらの洗濯干し、掃除、調理、園芸など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、ドライブ、買い物、外食などその日の希望に対応できるように取り組んでいる。月に一度は「お出かけの日」を設けて気分転換を心がけ気兼ねなく希望が言えるように雰囲気づくりに配慮している。	事業所内の敷地が大変広く、天気がよければ毎日庭に出て外の空気に触れたり散歩をしている。また、少し遠めのドライブ、買い物、喫茶店、美容院、お墓参り等、さらに、月に一度は「お出かけの日」を設けて戸外で気分転換でき、生き生きと過ごせるように多彩な外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方は自分でやっている。能力に応じて買い物に行くときに財布を渡す等、各人の力量を考慮して支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話は電話中には席を外すなど、プライバシーに配慮しながら、自由に使えるようにしている。荷物や手紙などは居室へお届けしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、食堂の設備や食器、家電類は家庭用の物を用い、また、食事の用意が一緒にできたり、香りが漂い、心が和む雰囲気づくりをしている。床の間には掛け軸、季節の生け花、絵画を飾る等、家庭的な雰囲気づくりをしている。	居間兼食堂は一方は窓で一方は中庭に面し開放的で明るい、居間と対面式につくられた台所は見守りながら利用者と一緒に食事の準備でき、調理時のいい香りが漂い食欲を誘う。また、掘りごたつ式で床の間付の広くて明るい居間兼客間があり、利用者で季節ごとの花が生けられる等ゆったりと居心地良く過ごせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や廊下のソファ、玄関のベンチ等で、一人または気の合った利用者同士で自由に過ごせるよう、また縁側やソファでのひなたぼっこや昼寝等、気軽に過ごせる場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、以前自分の家庭で愛用されていた調度品の持ち込みを奨励している。椅子、たんす、本棚、仏壇、テレビ、冷蔵庫、じゅうたん、家族の写真等、が持ち込まれている。	各居室とも清潔できれいである。本人や家族の希望があれば何でも持ち込めるようになっていて、使い慣れたもの(椅子、たんす、テレビ、仏壇等)が持ち込まれ、壁やたんすの上にはお気に入りの写真や馴染の飾りつけがされており、居心地良く過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や迷いの少ない居室前トイレ、ちょうどよい高さの洗面台横のタオルかけなど、利用者一人ひとりが使いやすく快適に生活できるように工夫している。整理整頓を心掛け安全で自立した生活ができるように支援している。		